目標1

自転車利用の促進等による健康寿命日本一の実現

(総括部署) 福祉保健部

◆概 要

県民の生活習慣病予防や心身のリフレッシュなどに自転車利用が効果的であることから、自転車 ● 競技や、日常生活における自転車利用も含めた生涯スポーツの普及奨励により、心身の健全な 発達や、生きがいのある豊かな生活の実現、県民の健康寿命の延伸等を目指す。

生活習慣病を予防し、あるいは寝たきりにならずに人生を健康に過ごし、QOL*1の向上に資する ● よう、県民のヘルスリテラシー*2の向上を図るとともに、自転車の利用促進につながるまちづくりと 連携し、日常の身体活動量の増加・底上げを図る。

● 県民の余暇の充実に資するよう、サイクルスポーツの裾野を広げ、できるだけ多くの人がサイクルスポーツを楽しめる機会の創出を図る。

◆令和4年(2022年)度の主な取組

【施策①:自転車の日常的な利用を通じた健康づくりの推進】

- ➤ 健康アプリ「おおいた歩得」の運用
- ➤ ポイント付与イベントにサイクリング関連イベントを登録
 - サイクルイベント数:66(全体登録者数:1,464)

【施策②:誰もが安全に自転車に乗れる環境の創出】

➤ 高齢者を対象とした交通安全教室などの実施

◆フォローアップ指標

| 目標指標 | 2022年度 | |
|--------------------------------------|---------|------|
| | 目標値 | 実績値 |
| 健康アプリ「おおいた歩得」登録自転車イベントで のポイント付与者数 | 1500人/年 | 642人 |

目標未達成の理由、 要因、今後の予定等 レンタサイクルを活用したイベントなどの参加者にポイントを付与。新型コロナウィルス感染症の影響もあり、目標達成には至らなかった。

〈解 説〉





*1 「QOL」

クオリティ・オブ・ライフ (quality of life) の略。快適な生活の必要条件であり、人間が日常生活を営む上で必要とされる満足感、幸福感、安定感を規定している様々な要因の質。

*2 「ヘルスリテラシー」

健康課題に対して適切に判断するために必要な情報等を理解し、活用する能力。

目標2

サイクリスト・フレンドリーな「おんせん県おおいた」の実現

(総括部署) 商工観光労働部

◆概 要

「日本一のおんせん県」が誇る豊富な観光資源と多くのサイクリングルートを有する大分県の特長 ● を活かし、サイクルツーリズムの推進等、自転車を活用した地域の活性化を図り、サイクリスト・フレンドリーな大分県を実現する。

地域を巡りながら沿線の魅力を楽しむ体験型・交流型旅行の目的地となり得るサイクリングルート ● としてブランド化を図り、Webサイト等を活用したプロモーションを展開し、県内を周遊滞在するサイクリストを国内外から誘客する。

乗ることそのものを楽しむサイクリング、市民参加型のサイクリングイベント及び自転車競技等、幅広い年齢層が自転車に親しめる多様な機会を得られるよう、広報普及活動等を通じてサイクルスポーツを振興する。加えて、自転車に関する国際会議や国際大会等の誘致を推進し、自転車を通じた地域の活性化を図る。

◆令和4年(2022年)度の主な取組

【施策③:大分が誇る観光資源を活かしたサイクルツーリズムの推進】

- ➤ サイクルマップ、チラシ等を作成し「サイクルin九州」への掲載
- ➤ 県サイクルHPの改修
- ➤ 観光サイクルルートの造成及びプロモーション動画制作
- ➤ SNSを活用した情報発信
- ➤ 大分県サイクルツーリズム推進委員会発足(委員会3回実施)

【施策④:サイクルスポーツの振興】

- ➤ ツール・ド・九州の開催地となる日田市を中心に大会周知を実施
- ➤ 県内道の駅と連携したサイクリスト向けの大会周知

◆フォローアップ指標

| 目標指標 | 2022年度 | |
|-------------------------------------|--------|------|
| | 目標値 | 実績値 |
| 県内のサイクリングルートを活用した観光周遊モ デルコースの設定数 | 4コース/年 | 5コース |

目標未達成の理由等

目標指標達成。今後、更に観光周遊モデルコースの設定に取組む

〈解 説〉

*3 「サイクリングルート」

大分県には、自転車活用推進計画に示した主要なサイクリングルートが12ルートあり、 そのうち2つが国の自転車活用推進計画上のモデルルートとして指定されている。

-5-

目標3

自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成

(総括部署) 土木建築部

◆概 要

県民の健康増進やサイクルツーリズム推進等のほか、交通分野の低炭素化、都市部を中心 とした道路交通の円滑化、交通手段の多様化による周遊性の向上等、自転車交通の役割拡 大が期待されている。

このため、自転車は公共交通とともに公共性を有するモビリティであることを踏まえ、それにふさわしい安全で快適な自転車利用環境を計画的かつ継続的に創出するとともに、公共交通との連携を強化し、良好な都市環境の形成を図る。

◆令和4年(2022年)度の主な取組

【施策⑤:自転車通行ネットワークの計画的な整備促進】

➤ 別府市、杵築市、中津市、豊後大野市において自転車歩行者道の整備を実施

·16路線22工区、1650mが供用開始

【施策⑥:生活道路における通行空間の安全性の向上】

➤ 国道500号や国道442号等の7箇所において無電柱化事業の実施(整備中)

【施策⑦: 地域のニーズに応じた駐輪場等の整備促進】

➤ 都市再生整備計画事業により、JR柳ヶ浦駅前広場に駐輪場の整備(163台)

【施策⑧:違法駐車の取締りの推進】

➤ 駐車監視員活動ガイドラインに基づく違法駐車取締りの実施

【施策⑨:シェアサイクル等の利用促進】

➤ 大分市内でのシェアサイクルポート設置場所を検討(大分市、運営会社(㈱SAT)

◆フォローアップ指標

| 目標指標 | 2022年度 | |
|--|--------------|---------|
| | 目標値 | 実績値 |
| ①計画期間内に整備する自転車通行空間の延長 | 27km | 11.26km |
| ※目標値は令和8(2026)年度までの延べ数値 | (R4年度:7.5km) | |
| ②自転車ネットワークに関する計画が位置づけられた 自転車活用推進計画を策定した市町村数 | 2市町村 | 0市町村 |
| ※目標値は令和8(2026)年度までの延べ数値 | | |
| ③計画期間内に整備するまちなかや駅前の駐輪台数 | 140台 | 163台 |
| ※目標値は令和8(2026)年度までの延べ数値 | | |

目標未達成の理由、 要因、今後の予定等 または補足説明等 ①については、計画に基づき整備を行なっている。単年度の計画は達成。 ②については、計画ルートの選定及び整備に要する予算確保の調整に時間 を要しており、計画策定が難航している

目標4

自転車事故のない安全で安心な社会の実現

(総括部署) 生活環境部

◆概 要

自転車事故は、自転車利用者が被害者にも加害者にもなる可能性があるため、交通ルールを遵守し、自分の安全を確保しながら、歩行者へ思いやりをもって運転することが求められている。

このため、自転車交通事故ゼロの社会を目指し、歩行者、自転車、自動車が互いの特性や交通ルールについて理解が一層深められるよう普及啓発に取り組むとともに、互いに尊重しあう安全で安心な交通環境の創出を図る。

◆令和4年(2022年)度の主な取組

【施策⑩:乗車用ヘルメット等被害軽減器具の使用の促進に向けた広報啓発】

- ➤ ヘルメット着用促進のためののぼり旗、マウスパッドの作成・配布(のぼり:200枚、マウスパッド:1.000枚)
- ▶ 自転車利用の多い高校生に向けたチラシ(35,000枚)の作成及び配布
- ➤ 道路交通法改正に伴う、全ての自転車利用者の乗車用ヘルメット着用努力義務化を広報する チラシの作成・配布(30,000枚)

【施策(1):交通安全教育への推進】

- ▶ 自転車シミュレータを活用した安全教育の実施(全20回、3,055人参加)
- ➤ 高校生交通安全動画コンテストを開催し優秀作品をCM等で放送。(県民の交通安全意識の高揚) ・参加校数:15校、作品数:26作品
- ➤ 交通安全教育講師派遣事業 82回実施 (7,966人参加)
- ➤ ケーブルテレビアナウンサーと協働した自転車の安全利用に係る交通安全教育

【施策⑫:自転車の点検整備等による安全性の確保】

▶ 自転車用反射材(サイクルキャップ)の作成・配布(10,000個)

【施策③:自転車損害賠償責任保険等への加入促進】

▶ 自転車条例周知のためのチラシ・ポスターの作成・配布 (チラシ100,000枚、ポスター2,000枚)





◆フォローアップ指標

| 目標指標 | 2022年度 | |
|---------------------------|--------|-----|
| | 目標値 | 実績値 |
| ①自転車事故死者数 | 3人以下/年 | 1人 |
| ②自転車事故重傷者数 | 40人以下 | 46人 |
| ※目標値は令和8(2026)年度までに達成する数値 | | |

今後の予定等

令和5年4月1日に改正「大分県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を施行し、自転車利用時の乗車用ヘルメットの着用を促進するとともに、更なる自転車事故抑止、自転車保険等への加入促進を図る。